

第2章

質保証を伴った共同教育プログラム実施のための手引書の活用に関する調査

2.1 質保証を伴った共同教育プログラム実施のための手引書について

2.1.1 手引書の作成の背景と目的

国境を越える学生交流、大学間交流は質保証を伴ったものであることが必要である。特に、東アジア地域では教育制度や文化・慣習面において世界の他の地域と比して独自の性格を持ち、かつ多様性に富んでおり、東アジアにおける学生交流、大学間交流を支援するには、各国の高等教育制度を理解・尊重しながら、互惠性を念頭に置いた、独自の質保証のアプローチが必要である。このことから、大学改革支援・学位授与機構では、2011年度～2015年度にかけて、アジアおよび、欧州における取り組みに関する文献調査と中国、韓国またはASEAN諸国における交流プログラムを実施する事業として、大学の世界展開力強化事業に採択された大学と海外のパートナー校を対象にヒアリング調査を実施し、調査から得られた知見に基づいて、東アジアの大学が国境を越えた共同教育プログラムの質を確認・保証する際に活用し得る、実践的な手引書を開発した^{*1}。本手引書は、自大学の共同教育プログラムを確認することと、質の保証を伴う、いわば内部質保証の充実を支援することを目的とし、点検事項を一覧する形（チェックリスト）で構成されている。これらの事項は、現在実施されている、あるいは近い将来に実施を予定されている共同教育プログラムに関する経験的調査の結果に基づいて作成されたものである。

2.1.2 手引書の位置づけ

日本と海外の大学等の間で提供する共同教育プログラムの質を確認・保証する際に実践的に活用することを目的としており、主な対象は、以下の通りである。

1. 海外の大学等と共同教育プログラムを実施予定・計画している日本の大学
2. すでに、海外の大学等と共同教育プログラムを実施している日本の大学
3. 日本の大学と共同教育プログラムの実施を予定・計画または実施している海外の大学等

これらの大学が、自大学のプログラムを自己点検することにより、優良事例となり得る、または推奨

^{*1} 開発した手引書は公開されており、以下のサイトからダウンロードできる。
<https://www.niad.ac.jp/publication/tyousa/higashiasia/>

できる、かつ、学生の権利を保護するプログラムの構築と運営に役立つものであることを期待しており、「すべてを満たすべき項目」としての義務や制約を意図するものではない。あくまで、その項目を確認することにより、不十分である点を見出し、その検討、改善に資すること、また、そのことを通じてプログラムのリスクが低減されることを期待している。

2.1.3 チェックリストの構成と要素

チェックリストの全体構成は、学位プログラムと非学位プログラムにおいて、それぞれ「プログラム構築」「学生選抜・資源確保」「教育実施」そして「成果測定・評価」の4段階となっている。また、各段階の内容は学位プログラムにおいては13要素、非学位プログラムにおいては「学位授与」の要素を除き、12要素となっている。全体における段階別要素は、以下に示すとおりである。

- プログラム構築段階
 1. プログラム構築: プログラム実施に当たる事前確認及び協議内容
 2. 目的と実施体制: 目的の明確化及び目的を達成するための適切な実施体制
 3. 教職員: 目的や教育内容・水準に適合した教職員の配置及び円滑化への工夫
- 学生入学・資源確保段階
 4. 学生選抜参加 目的や教育内容を踏まえた適切な基準・方法
 5. 財政と施設・設備: 目的を達成するための予算確保、配分及び施設
- 教育実施段階
 6. 教育内容・方法: 目的を達成するための適切な教育内容や方法
 7. 成績評価: 厳格な成績評価のための相互確認及びシステムの構築
 8. 単位互換・認定: 適切な単位互換・認定方法の双方検討と機能
 9. 学習支援: 参加学生が適切に学べるような学習面における支援
 10. 生活・キャリア支援: 参加学生が適切に学べるような生活面における支援
- 成果測定・評価段階
 11. 学習成果の測定: プログラムの目的に即した適切な測定方法の設定と継続的な実施
 12. 学位授与: 学位授与のための適切な基準と審査方法
 13. 内部質保証: プログラムの質の改善・向上を図るための適切な体制の整備と機能

各要素は、(1) 要素の趣旨についての概略 (2) 点検項目の列挙 (3) 使用された用語、概念について解釈が必要とする場合はその解説の3部で構成されている。

2.1.4 チェックリストの英語版

海外の大学とチェックリストの項目について共有し、共に点検する際に活用できるよう英語版も以下の13要素で構成され、公開されている*2。

1. Program Launch Preparation
2. Objective and Implementation

*2 Checklist for quality assurance of international collaborative programs として公開されており、以下のサイトからダウンロードできる。
<https://www.niad.ac.jp/publication/tyousa/higashiasia/>

3. Academic and Administrative Staff
4. Admission and Student Selection
5. Finance and Facilities
6. Teaching and Learning
7. Student Assessment
8. Credit Transfer and Recognition
9. Support for Learning
10. Support for Life and Career Development
11. Measurement and Certification of Learning Outcomes
12. Degree Awarding (only for degree-program)
13. Internal Quality Assurance

2.2 国際共同教育プログラムの質保証と手引書の活用についての調査

2.2.1 国際共同教育プログラムの質保証活動の実施状況に関する予備調査

2.2.1.1 調査の目的

質保証を伴った国際共同教育プログラム実施のための手引書は、効果的な質保証活動の促進を目的としている。効果的に手引書を活用するためには、プログラムの質保証に関する状況を把握し、その結果を活用方法の提案に反映させる必要がある。このことから本調査は手引書の活用のための予備調査と位置づけられ、国際共同教育プログラムの質保証の現状を把握することを目的とする。

2.2.1.2 調査方法

2.2.1.2.1 対象

高等教育機関の国際化を推進することを目的とした事業における質保証に関する状況を分析するために、スーパーグローバル大学等事業および、大学の世界展開力強化事業に採択された134事業（20011年～2014年）を対象とした。

2.2.1.2.2 調査方法

公表されていると取り組み概要文書の中から、質保証活動に関する記載内容を抽出後、それらをデータとしてクラスター分析を行った。分析はテキストマイニング法を採用し、質的分析は国境を越えた高等教育を専門とする研究者2名によって分析が行われ、個々に行った分析結果が一致するまで、分析と修正のプロセスを繰り返し実施した。

2.2.1.3 結果

分析の結果、質保証への取り組みとして5つのクラスターに分類された（表2.1）。第1クラスターの質保証活動を実施していない、第2クラスターの国際共同事業を実施するために必要な基本的な学務に関するものから、第5クラスターの外部質保証活動まで、クラスターの段階があがるにつれ（クラスターが1から5に近づくにつれ）国際共同教育事業を遂行するための質保証が充実すると考えられる。

表 2.1: 質保証への取り組み段階

クラスター	取り組み内容
1	質保証活動の実施なし
2	単位互換制度の確立、GPA 制度やラーニングポートフォリオなど、学生に学習成果を確実に獲得させ、そのプロセスや結果を蓄積し、可視化するツールの導入
3	プログラム等が設定した学習成果の獲得に効果的か、第1クラスターで導入しツールが正しく機能しているか等の自己点検・自己評価を目的とした学内委員会（自国とパートナー校教員やスタッフで構成）の設置、モニタリングの実施
4	高等教育・国際教育の外部専門家や企業関係者から構成されるプログラム等の国際通用性を評価する学外委員会の設置、外部評価の実施
5	質保証機関やプログラム評価を行う団体・組織による外部質保証の受審

次に、各事業の取り組みを分類されたクラスターにコーディングした。

その結果、第1クラスターから第5クラスターの各クラスターにおいて該当事業の占める割合は、第1

クラスター：7.58%、第2クラスター：28.78%、第3クラスター：33.33%、第4クラスター：30.3%、第5クラスター：0%であり、69.69%がクラスター1～3にコーディングされた。

また、クラスター2から4までの事業が海外のパートナー校と協働してこれらの取り組みを実施しているか、または、日本の高等教育機関が単独で実施し、検討結果や実施結果のみを海外パートナー校と共有するのか、の分析を行った。その結果、クラスター2では40.98%、クラスター3は36.7%、クラスター4は15.79%が協働活動として質保証活動を実施していた。

2.2.1.4 まとめ

結果から、高等教育機関のグローバルを促進する取り組みに関する事業における質保証活動については、69.69%の事業がクラスター3の自己点検・自己評価レベルの活動にとどまっているといえ、高等教育機関の質保証への意識は十分に成熟していないといえる。更に、国際共同教育という性質上、海外のパートナー校との協働的取り組みが重要であるといえるが[2]、質保証活動を実施している事業であっても海外のパートナー校と協働して実施している事業は多数ではなく、取り組み内容のレベルがあがるほど、更にその傾向が強くなった。

これらのことから、日本の高等教育機関では、国際教育に関する質保証を実施する環境が十分に整備されているとはいえず、質保証を伴った共同教育プログラム実施のための手引書の活用を効果的に行える素地を作ることも重要であることが示唆された。

2.2.2 チェックリスト項目に関する質保証活動の重視度に関する認識と実施状況調査

2.2.2.1 目的

質保証を伴った共同教育プログラム実施のための手引書を高等教育機関が効果的に活用するためには、活用者の質保証に対する認識を把握する必要がある。このことから、本調査は手引書の活用者として想定される国際共同教育プログラムを実施する教職員の手引書に対する重要性認識について把握することを目的とする。

2.2.2.2 調査方法

2.2.2.2.1 調査対象と調査機関

2016年に作成した「質保証を伴った共同教育プログラム実施のための手引書」には、国際的な共同教育プログラムの質保証に参考となる項目を「チェックリスト」として列挙し、解説を付けて掲載している。本調査では、国際的な共同教育プログラムに関係している教職員を対象とした。具体的には、2016年4月7日実施した「平成29年度世界展開力強化事業の公募説明会」にて、上記の手引書の送付を要求した大学関係者（63大学、80名）に調査への回答を依頼した。

2.2.2.2.2 有効回答数

63大学80名の大学関係者に調査を依頼し、18名から回答を得た。このうち、国際的な共同教育プログラムに関わりがない、世界展開力強化事業に今後とも実施を予定・計画していないと回答した3名と、回答対象プログラムへの回答ができなかったと考えられる2名（問8まで回答）を除き、分析可能な回答数は13名である。

2.2.2.2.3 調査期間

2016年11月1日～12月13日に実施した。

2.2.2.2.4 調査（回答）方法

Webcas システムを用いたウェブ調査を実施した。

2.2.2.2.5 調査項目

- 回答者の基本情報（学校及び国際的な共同教育プログラムへの関わりに関する情報）（問1～問6）
- 平成28年度「大学世界展開力強化事業」への申請有無（問7）
- プログラム種類及び実施課程を含むプログラムの内容（問8、問9）
- プログラムの実施目的（問10）
- 「チェックリスト」の項目に対する実施状況と重視すべき度合と自由記述（問11～問24）

2.2.2.3 結果

2.2.2.3.1 基本的な情報について

1. 学校の種別（問1）

国立大学	公立大学	私立大学	計
12	1	5	18

2. 学校の規模（問2）

単科大学	2～4学部	5～7学部	8学部以上	無回答	計
3	5	3	6	1	18

3. 教職員区分（問4）

教員	事務職員	計
7	11	18

4. 共同教育プログラムに対する関わり（問5）

現在、関わっている	13
現在は関わっていないが、過去に関わったことがある	1
今までの関わりはないが、今後、関わる予定である	2
関わりはない	2
計	18

5. 共同教育プログラムにおける立場（問6）（複数回答）

共同教育プログラムの事務上の総括	5
共同教育プログラムの事務上の事務	7
共同教育プログラムの設計	9
授業の実施、研究指導	4
外国人学生のケア	5
その他	3

2.2.2.4 回答対象プログラムについて

これより以下は携わっている共同教育プログラムのうち、主要なもの1つについて回答を求めたプログラムについての回答結果である。

2.2.2.4.1 世界展開力強化事業への申請有無（問7）

回答対象プログラム平成28年度世界展開力強化事業に申請したプログラムは12件であり、そのうち8件は原型となるプログラムがあった。一方、申請していないプログラムは4件であった。

	国立	公立	私立	計
申請した：申請プログラムの原型となるプログラムがあった	8	0	1	9
申請した：申請プログラムの原型となるプログラムはなかった	2	0	1	3
申請していないが、今後、実施を予定・計画している	2	1	0	3
今後とも、実施を予定・計画していない	0	0	1	1

2.2.2.4.2 プログラムの種類（問8）

回答対象プログラムの種類は、「ダブル・ディグリー・プログラム」と「アーティキュレーション」（単位互換によるプログラム、以下、「単位互換プログラム」という。）は両方とも5件であり、「ツイニング・プログラム」と「その他」はそれぞれ2件と3件である。「その他」と回答した3件のうち2件は自由記述の説明から「ツイニング・プログラム」に、1件は「単位互換プログラム」に算入することが可能であった。そのため、これ以降の集計ではこの修正した区分を用いて分析する。

	国立	公立	私立	計	修正値
a. ジョイント・ディグリー・プログラム	0	0	0	0	0
b. ダブル・ディグリー・プログラム	5	0	0	5	5
c. ツイニング・プログラム	1	0	1	2	4
d. アーティキュレーション （単位互換によるプログラム）	3	1	1	5	6
e. その他	3	0	0	3	-

2.2.2.4.3 回答対象プログラムの概要（問9）

問9では回答対象プログラムにおける授与される学位の表記、専門分野、標準卒業・修了年限などを含む概要を問うており、ここでは、教育課程、開始年度、相手大学が所在する国に関する集計のみを示す。

● プログラム別回答

－ 教育課程（複数回答）

	学士	修士	博士	無回答
ダブル・ディグリー・プログラム	－	3	－	2
ツイニング・プログラム	2	1	2	1
単位互換プログラム	6	4	3	－

－ プログラムの開始年度

2011	2012	2013	2016	2017	2019	不明	該当しない
1	2	1	3	2	1	1	6

－ 相手大学が所在する国

台湾	1	インドネシア	1	メキシコ	1
中国	5	フィリピン	2	ラオス	1
韓国	5	シンガポール	1	ミャンマー	2
ベトナム	4	カンボジア	2		

● 回答対象プログラム実施目的（問 10）

回答対象プログラムを実施するにあたって、各項目を達成することをどの程度重視したか（するか）について下記の 5 段階から 1 つの選択を求めた結果を、1) 全体、2) プログラム種類、3) 相手国（中韓と ASEAN）、に区分してまとめて示す。

5＝重視した（する）、 4＝どちらかと言えば重視した（する）、 3＝どちらとも言えない、 2＝どちらかと言えば重視しなかった（しない）、 1＝重視しなかった（しない）

1. 全体

17 の選択肢において回答全体の平均値は「p. 海外からの学生受入等により、自大学の経営の安定を図ること」を除き、3 以上となっている。共同教育プログラムの実施目的として、もっとも重視しているのは「e. 多文化理解の促進や優秀な学生を受入」であり、次いで「n. 海外からより優秀な学生の受け入れ」と「b. 国際的に通用する高度専門職人材養成」と「b. 教育の質向上」であった。

	全体平均 (n=12)
a. 貴学の学生を海外の産業界で就業可能な人材に養成すること	3.9
b. 貴学の学生を国際的に通用する高度専門職人材に養成すること	4.5
c. 貴学の学生を国際的に活躍できる研究者に養成すること	3.7
d. 貴学の学生の語学能力を向上すること	4.3
e. 貴学の学生の多文化理解を促進すること	4.7
f. 貴学の学生に海外の大学等有する先端的な知識を習得させること	3.3
g. 貴学における、海外の社会や環境を対象とした教育研究活動（例えば地域研究など）を促進すること	3.9
h. 貴学における、海外の特定の教育研究施設の利用が必要な教育研究活動を促進すること	3.1
i. 貴学の国際的な認知度を向上すること	3.9
j. 貴学の教育の国際的な競争力や魅力を向上すること	4.1
k. 貴学の教育内容の国際的通用性や標準性を向上すること	4.3
l. 貴学の教育の質を向上すること	4.5
m. 貴学の全学生が海外人材と交流する経験を増やすこと	4.2
n. 海外からより優秀な学生を受入れること	4.6
o. 日本国内での貴学の教育の差異化や魅力を向上すること	3.9
p. 海外からの学生受入等により、自大学の経営の安定を図ること	2.6
q. 研究面での国際的な共同へつなげていくこと	4.1

2. プログラム種類による区分

すべての項目においてダブル・ディグリー・プログラムがツイニング・プログラムと単位互換によるプログラムより、重視度が高い。特に、「国際的に通用する高度専門職人材育成」、「国際的な認知度の向上」、「国際的な競争力・魅力向上」、「国際的通用性や標準性の向上」「教育の質の向上」といったプログラム実施目的はすべての回答者（n=3）において重視している。一方、ツイニング・プログラムが他のプログラムに比べてすべての項目において重視度が低い傾向にある。

	DD1(n=3)* ¹	TW(n=4)* ²	単位互換 (n=5)* ³	全体 (n=12)
a. 貴学の学生を海外の産業界で就業可能な人材に養成すること	4.3	3.8	3.8	3.9
b. 貴学の学生を国際的に通用する高度専門職人材に養成すること	5.0	4.3	4.4	4.5
c. 貴学の学生を国際的に活躍できる研究者に養成すること	4.7	2.8	3.8	3.7
d. 貴学の学生の語学能力を向上すること	4.7	3.8	4.6	4.3
e. 貴学の学生の多文化理解を促進すること	4.7	4.3	5.0	4.7
f. 貴学の学生に海外の大学等有する先端的な知識を習得させること	4.3	2.5	3.2	3.3
g. 貴学における、海外の社会や環境を対象とした教育研究活動（例えば地域研究など）を促進すること	4.3	3.5	4.0	3.9
h. 貴学における、海外の特定の教育研究施設の利用が必要な教育研究活動を促進すること	3.0	2.5	3.8	3.1
i. 貴学の国際的な認知度を向上すること	5.0	3.3	3.8	3.9
j. 貴学の教育の国際的な競争力や魅力を向上すること	5.0	3.5	4.0	4.1
k. 貴学の教育内容の国際的通用性や標準性を向上すること	5.0	4.0	4.2	4.3
l. 貴学の教育の質を向上すること	5.0	4.0	4.6	4.5
m. 貴学の全学生が海外人材と交流する経験を増やすこと	5.0	2.8	4.8	4.2
n. 海外からより優秀な学生を受入すること	5.0	4.3	4.6	4.6
o. 日本国内での貴学の教育の差異化や魅力を向上すること	5.0	3.3	3.8	3.9
p. 海外からの学生受入等により、自大学の経営の安定を図ること	3.0	2.5	2.4	2.6
q. 研究面での国際的な共同へつなげていくこと	4.0	3.5	4.6	4.1

*¹ ダブル・ディグリー・プログラム*² ツイニング・プログラム*³ 単位互換によるプログラム

注) 上記の 1～3 は、プログラム種類による区分に対する表において同様

3. 相手国（中韓とASEAN）による区分

回答プログラムは中国、韓国を対象にするプログラム（以下、中韓プログラム）とASEAN諸国を対象にするプログラム（以下、ASEANプログラム）に区分できる。全体的に多くの項目において中韓プログラムがASEANプログラムより重視度が高い。これは、4件の中韓プログラムの3件がダブル・ディグリー・プログラムであることによると考えられる。なお、この3件ともにキャンパス・アジア・プログラムである。

	中韓 (n=4)	ASEAN(n=8)	全体 (n=12)
a. 貴学の学生を海外の産業界で就業可能な人材に養成すること	4.0	3.9	3.9
b. 貴学の学生を国際的に通用する高度専門職人材に養成すること	4.8	4.4	4.5
c. 貴学の学生を国際的に活躍できる研究者に養成すること	4.5	3.3	3.7
d. 貴学の学生の語学能力を向上すること	4.8	4.1	4.3
e. 貴学の学生の多文化理解を促進すること	4.8	4.6	4.7
f. 貴学の学生に海外の大学等有する先端的な知識を習得させること	3.8	3.0	3.3
g. 貴学における、海外の社会や環境を対象とした教育研究活動（例えば地域研究など）を促進すること	3.8	4.0	3.9
h. 貴学における、海外の特定の教育研究施設の利用が必要な教育研究活動を促進すること	2.8	3.3	3.1
i. 貴学の国際的な認知度を向上すること	4.8	3.5	3.9
j. 貴学の教育の国際的な競争力や魅力を向上すること	4.5	3.9	4.1
k. 貴学の教育内容の国際的通用性や標準性を向上すること	4.5	4.3	4.3
l. 貴学の教育の質を向上すること	4.8	4.4	4.5
m. 貴学の全学生が海外人材と交流する経験を増やすこと	4.8	3.9	4.2
n. 海外からより優秀な学生を受入すること	4.8	4.5	4.6
o. 日本国内での貴学の教育の差異化や魅力を向上すること	4.5	3.6	3.9
p. 海外からの学生受入等により、自大学の経営の安定を図ること	2.5	2.6	2.6
q. 研究面での国際的な共同へつなげていくこと	4.0	4.1	4.1

2.2.2.5 チェックリストに関する「実施状況」と「重視度」について

チェックリストは、プログラムの構築、目的と実施体制、教職員、学生選抜・参加、財政と施設・設備、教育内容・方法、成績評価、単位互換・認定、学習支援、生活・キャリア支援、学習成果の測定、学位授与、内部質保証の13カテゴリになっている。本回答結果の概要では、カテゴリごとに「実施状況」と「重視度」について下記の尺度から1つの選択を求めた。その結果を、1) 全体、2) プログラム種類、3) 相手国（中韓とASEAN）、に区分してまとめて示す。

「実施状況」	3＝実施・実現した、2＝実施・実現していないが計画中、1＝実施・実現していない
「重視度」	5＝重視すべきである、4＝どちらかと言えば重視すべきである、3＝どちらとも言えない、2＝どちらかと言えば重視すべきではない、1＝重視すべきではない

2.2.2.5.1 「プログラムの構築」について（問 11）

1. 全体

共同教育プログラムを構築する際のチェックリストとして下記の 12 項目のうち多くの項目について、回答者（n=12）の 5 割以上が「実施・実現した」と回答した。また、それらの項目について重視すべきであると認識されている傾向にあるといえる。一方、項目「11.10 用語定義についての連携大学との共通認識と明文化」、「11.11 外部専門家や有識者の協力や指導・助言によるプログラムの妥当性の確認」、「11.12 共同学位プログラムの場合は、段階的な交流の実施とその経験からのノウハウや課題の確認」については、重視すべき項目であると考えているものの、他の項目に比べて実施状況が高くないことが分かる。

	実施状況 (n=12)				重視度 (n=12)					
	3:実施・実施していた				5:重視すべきである					
	3	2	1	平均	5	4	3	2	1	平均
11.1 連携大学の当該国における法的な位置づけ、質保証制度、高等教育制度・仕組みに関する必要な情報を収集・把握しているか	6	6	0	2.5	10	2	0	0	0	4.8
11.2 連携大学または連携プログラムが当該国において、公的な、または公的に認定された民間団体の	8	4	0	2.7	6	6	0	0	0	4.5
11.3 当該国における共同教育プログラムに関する公的な、または公的に認定された民間団体による、ガイドライン及び指針等の有無とその内容を確認しているか	6	3	3	2.3	5	4	3	0	0	4.2
11.4 プログラムの運営方針は、協定書を通じて連携大学と正式に取り決め、連携大学間の関係者に周知されているか	6	4	2	2.3	11	1	0	0	0	4.9
11.5 プログラム構想に当たり、連携大学または連携プログラム関係者との信頼関係を構築できているか	9	3	0	2.8	12	0	0	0	0	5.0
11.6 プログラムの実施計画が、連携大学と綿密に検討され、明確に定められているか	8	3	1	2.6	12	0	0	0	0	5.0
11.7 プログラム構想段階から運営委員会を共同で設置し、綿密な協議を実施しているか	6	4	2	2.3	11	1	0	0	0	4.9
11.8 プログラムの協議事項には、教育課程・組織の編成、学生選抜及び学位授与、在籍管理及び安全、奨学及び厚生補導、教育研究活動を含む状況の評価といった事項を含んでいるか	7	5	0	2.6	10	2	0	0	0	4.8

11.9 連携大学の学年暦（アカデミックカレンダー）を確認し、相違がある場合には、その対応方法を協議しているか	9	3	0	2.8	11	1	0	0	0	4.9
11.10 共同教育プログラムに関する用語の定義について、連携大学と共通の認識を有しており、その内容を明文化しているか	5	5	2	2.3	8	3	1	0	0	4.6
11.11 外部専門家（コンサルタント等）や有識者の協力や指導・助言を得て、プログラムの妥当性を確認しているか	5	4	3	2.2	6	3	3	0	0	4.3
11.12 共同学位プログラムを構築する場合は、段階的な交流を実施し、その経験からのノウハウや課題を確認しているか	4	5	3	2.1	10	1	1	0	0	4.8

2. プログラム種類による区分

プログラム種類による「実施状況」については、単位互換によるプログラムがダブル・ディグリー・プログラム、ツイニング・プログラムより高い傾向にある。項目「11.3 当該国における共同教育プログラムに関する公的な、または公的に認定された民間団体による、ガイドライン及び指針等の有無とその内容の確認」については、どのプログラムにおいても、他の項目に比べて、「実施状況」と「重視度」が低い。ツイニング・プログラムにおいては、項目「11.7 プログラム構想段階から運営委員会を共同で設置し、綿密な協議を実施」、「11.12 共同学位プログラムの場合は、段階的な交流の実施とその経験からのノウハウや課題の確認」対する「実施状況」は低かったが、重視すべきである項目として認識している。

	DD(n=3)		TW(n=4)		単位互換 (n=3)	
	実施状況	重視度	実施状況	重視度	実施状況	重視度
11.1 連携大学の当該国における法的な位置づけ、質保証制度、高等教育制度・仕組みに関する必要な情報を収集・把握しているか	2.3	5.0	2.3	4.8	2.8	4.8
11.2 連携大学または連携プログラムが当該国において、公的な、または公的に認定された民間団体の質の保証を受けていることを確認しているか	2.7	4.3	2.5	4.5	2.8	4.6
11.3 当該国における共同教育プログラムに関する公的な、または公的に認定された民間団体による、ガイドライン及び指針等の有無とその内容を確認しているか	2.0	4.0	2.5	4.3	2.2	4.2
11.4 プログラムの運営方針は、協定書を通じて連携大学と正式に取り決め、連携大学間の関係者に周知されているか	2.7	5.0	2.0	5.0	2.4	4.8
11.5 プログラム構想に当たり、連携大学または連携プログラム関係者との信頼関係を構築できているか	2.7	5.0	2.5	5.0	3.0	5.0
11.6 プログラムの実施計画が、連携大学と綿密に検討され、明確に定められているか	2.7	5.0	2.0	5.0	3.0	5.0
11.7 プログラム構想段階から運営委員会を共同で設置し、綿密な協議を実施しているか	2.7	5.0	1.5	5.0	2.8	4.8
11.8 プログラムの協議事項には、教育課程・組織の編成、学生選抜及び学位授与、在籍管理及び安全、奨学及び厚生補導、教育研究活動を含む状況の評価といった事項を含んでいるか	2.7	5.0	2.3	4.8	2.8	4.8
11.9 連携大学の学年暦（アカデミックカレンダー）を確認し、相違がある場合には、その対応方法を協議しているか	2.7	4.7	2.5	5.0	3.0	5.0
11.10 共同教育プログラムに関する用語の定義について、連携大学と共通の認識を有しており、その内容を明文化しているか	2.3	4.7	2.0	4.8	2.4	4.4
11.11 外部専門家（コンサルタント等）や有識者の協力や指導・助言を得て、プログラムの妥当性を確認しているか	2.7	5.0	1.5	3.8	2.4	4.2
11.12 共同学位プログラムを構築する場合は、段階的な交流を実施し、その経験からのノウハウや課題を確認しているか	2.7	5.0	1.5	5.0	2.2	4.4

3. 相手国（中韓とASEAN）による区分

中韓プログラムにおいては「重視度」に比べ、他の項目に「実施状況」が低い項目は、「11.3 当該国における共同教育プログラムに関する公的な、または公的に認定された民間団体による、ガイドライン及び指針等の有無とその内容の確認」と「11.4 プログラムの運営方針の協定書を通じ比べて連携大学と正式な取り決めと連携大学間の関係者への周知」である。一方、ASEAN プログラムにおいては項目「11.3」、「11.4」に加え、「11.7 プログラム構想段階から運営委員会を共同で設置し、綿密な協議を実施」、「11.10 用語定義についての連携大学との共通認識と明文化」、「11.11 外部専門家や有識者の協力や指導・助言によるプログラムの妥当性の確認」、「11.12 共同学位プログラムの場合は、段階的な交流の実施とその経験からのノウハウや課題の確認」に対する実施状況が比較的低く、特に「11.11」と「11.12」の実施状況がもっとも低いことから、外部からの視点及び意見を得たうえでプログラムを構築する場合は少なく、また、学位プログラムを構築するときに非学位プログラムを含む交流からの経験とノウハウ等を活かされていないといえる。

	中韓 (n=4)		ASEAN(n=8)	
	実施状況	重視度	実施状況	重視度
11.1 連携大学の当該国における法的な位置づけ、質保証制度、高等教育制度・仕組みに関する必要な情報を収集・把握しているか	2.5	5.0	2.5	4.8
11.2 連携大学または連携プログラムが当該国において、公的な、または公的に認定された民間団体の質の保証を受けていることを確認しているか	2.8	4.5	2.6	4.5
11.3 当該国における共同教育プログラムに関する公的な、または公的に認定された民間団体による、ガイドライン及び指針等の有無とその内容を確認しているか	2.3	4.3	2.3	4.1
11.4 プログラムの運営方針は、協定書を通じて連携大学と正式に取り決め、連携大学間の関係者に周知されているか	2.3	5.0	2.4	4.9
11.5 プログラム構想に当たり、連携大学または連携プログラム関係者との信頼関係を構築できているか	2.8	5.0	2.8	5.0
11.6 プログラムの実施計画が、連携大学と綿密に検討され、明確に定められているか	2.8	5.0	2.5	5.0
11.7 プログラム構想段階から運営委員会を共同で設置し、綿密な協議を実施しているか	2.8	5.0	2.1	4.9
11.8 プログラムの協議事項には、教育課程・組織の編成、学生選抜及び学位授与、在籍管理及び安全、奨学及び厚生補導、教育研究活動を含む状況の評価といった事項を含んでいるか	2.8	5.0	2.5	4.8
11.9 連携大学の学年暦（アカデミックカレンダー）を確認し、相違がある場合には、その対応方法を協議しているか	2.8	4.8	2.8	5.0
11.10 共同教育プログラムに関する用語の定義について、連携大学と共通の認識を有しており、その内容を明文化しているか	2.5	4.8	2.1	4.5
11.11 外部専門家（コンサルタント等）や有識者の協力や指導・助言を得て、プログラムの妥当性を確認しているか	2.8	4.8	1.9	4.0
11.12 共同学位プログラムを構築する場合は、段階的な交流を実施し、その経験からのノウハウや課題を確認しているか	2.8	5.0	1.8	4.6

2.2.2.5.2 「目的と実施体制」について（問12）

1. 全体

共同教育プログラムの「目的と実施体制」に関するチェックリストの「実施状況」については、項目「12.5 コンソーシアム運営によるプログラムの場合、運営の手続きの手順や責任体制を明確」、「12.6 連携大学との運営委員会等の会合の定期的な開催と議事録の作成」、「12.8 やむを得ない事由によるプログラム終了（廃止）の場合、プログラムに参加した学生の不利益を回避するための支援体制・仕組みの整備」については実施・実現していないプログラムが多い。特に、項目「12.8」は、重視度の平均値が4.5で比較的高く、重視すべきであると認識しているものの、回答したどのプログラムにおいても実施・実現されていないことが分かる。しかし、多くのプログラムが実施・実現を計画中（n=8）であると回答しており、学生のリスク軽減という観点からも今後の実施状況の向上が期待される。

	実施状況 (n=10) 3:実施・実施していた				重視度 (n=10) 5:重視すべきである					
	3	2	1	平均	5	4	3	2	1	平均
12.1 プログラムの目的は明確であり、全連携大学の関係者（学生、教員、職員）に周知されているか	5	4	1	2.4	6	3	1	0	0	4.5
12.2 プログラムの効率・効果的な運営のためにコーディネーターの用意と役割は連携大学間で明確であるか	4	5	1	2.3	6	4	0	0	0	4.6
12.3 プログラムは自大学の目的や国際化戦略の中に位置づけられており、学内他部署との連携・支援体制は明確であるか	5	4	1	2.4	7	3	0	0	0	4.7
12.4 プログラムの実施責任者が明確であり、意思決定のプロセスが明確に定められているか	5	4	1	2.4	7	3	0	0	0	4
12.5 コンソーシアム運営によるプログラムの場合、運営の手続きの手順や責任体制を明確にしているか	3	3	3	2.0 (n=9)	5	2	1	0	1	4.1 (n=9)
12.6 連携大学との運営委員会等の会合を定期的で開催しており、議事録が作成されているか	2	7	1	2.1	7	3	0	0	0	4.7
12.7 連携大学との連絡・調整に当たり、日常的に連絡しうる体制が整っているか	6	3	1	2.5	8	1	0	1	0	4.6
12.8 やむを得ない事由によりプログラムが終了（廃止）された場合、修了認定の有効性を担保するなどプログラムに参加した学生の不利益を回避するための支援体制・仕組みが整備されているか	0	8	2	1.8	5	5	0	0	0	4.5

2. プログラム種類による区分

プログラム種類による「実施状況」と「重視度」における平均値は、ダブル・ディグリー・プログラム、単位互換によるプログラム、ツイニング・プログラムの順に高い傾向にある。ツイニング・プログラムにおいて、項目「12.2」「12.5」「12.6」「12.8」について実施状況が比較的低いものの、重視すべきであると認識されていたといえる。

	DD(n=3)		TW(n=4)		単位互換 (n=3)	
	実施状況	重視度	実施状況	重視度	実施状況	重視度
12.1 プログラムの目的は明確であり、全連携大学の関係者（学生、教員、職員）に周知されているか	2.7	4.7	2.0	4.3	2.7	4.7
12.2 プログラムの効率・効果的な運営のためにコーディネーターの用意と役割は連携大学間で明確であるか	2.7	4.7	1.8	4.5	2.7	4.7
12.3 プログラムは自大学の目的や国際化戦略の中に位置づけられており、学内他部署との連携・支援体制は明確であるか	2.7	5.0	2.0	4.5	2.7	4.7
12.4 プログラムの実施責任者が明確であり、意思決定のプロセスが明確に定められているか	3.0	5.0	2.0	4.5	2.3	4.7
12.5 コンソーシアム運営によるプログラムの場合、運営の手続きの手順や責任体制を明確にしているか	2.7	4.7	1.3 (n=3)	4.3 (n=3)	2.0	3.3
12.6 連携大学との運営委員会等の会合を定期的で開催しており、議事録が作成されているか	2.3	4.7	1.8	4.8	2.3	4.7
12.7 連携大学との連絡・調整に当たり、日常的に連絡しうる体制が整っているか	3.0	5.0	2.0	4.3	2.7	4.7
12.8 やむを得ない事由によりプログラムが終了（廃止）された場合、修了認定の有効性を担保するなどプログラムに参加した学生の不利益を回避するための支援体制・仕組みが整備されているか	2.0	4.3	1.8	4.8	1.7	4.3

3. 相手国（中韓と ASEAN）による区分

中韓プログラムのほうが ASEAN プログラムより、全体的に「実施状況」と「重視度」ともに平均値が高い。一方、項目「12.8 やむを得ない事由によるプログラム終了（廃止）の場合、プログラムに参加した学生の不利益を回避するための支援体制・仕組みの整備」については、中韓・ASEAN プログラムともに「実施状況」が低い、「重視度」について ASEAN プログラムのほうが中韓プログラムよりも高い。

	中韓 (n=4)		ASEAN(n=8)	
	実施状況	重視度	実施状況	重視度
12.1 プログラムの目的は明確であり、全連携大学の関係者（学生、教員、職員）に周知されているか	2.8	4.8	2.2	4.3
12.2 プログラムの効率・効果的な運営のためにコーディネーターの用意と役割は連携大学間で明確であるか	2.8	4.8	2.0	4.5
12.3 プログラムは自大学の目的や国際化戦略の中に位置づけられており、学内他部署との連携・支援体制は明確であるか	2.8	5.0	2.2	4.5
12.4 プログラムの実施責任者が明確であり、意思決定のプロセスが明確に定められているか	2.8	5.0	2.2	4.5
12.5 コンソーシアム運営によるプログラムの場合、運営の手続きの手順や責任体制を明確にしているか	2.8	4.8	1.4 (n=5)	3.6 (n=5)
12.6 連携大学との運営委員会等の会合を定期的で開催しており、議事録が作成されているか	2.5	4.8	1.8	4.7
12.7 連携大学との連絡・調整に当たり、日常的に連絡しうる体制が整っているか	3.0	5.0	2.2	4.3
12.8 やむを得ない事由によりプログラムが終了（廃止）された場合、修了認定の有効性を担保するなどプログラムに参加した学生の不利益を回避するための支援体制・仕組みが整備されているか	1.8	4.3	1.8	4.7

2.2.2.5.3 「教職員」について（問 13）

1. 全体

教職員に関する「実施状況」については、「教職員の能力開発・キャリア開発を支援するための FD や SD（項目 13.4）」については、実施・実現している大学が多く、すべての回答プログラム（n=10）で評点 4 と 5 を選択しており、重視すべきであると認識されていることが分かる。その他の項目については、「実施・実現していないが計画中である」と回答しているプログラムが多い傾向にある。一方、「主体的に関与している教員のモチベーション向上のための措置（項目 13.2）」について、重視すべきである認識している割合は他の項目に比べて、低い傾向にあることが分かる。

	実施状況 (n=10)				重視度 (n=10)					
	3:実施・実施していた				5:重視すべきである					
	3	2	1	平均	5	4	3	2	1	平均
13.1 プログラムの目的や教育内容・水準に適合した教員の数が連携大学間で確保され、適切に配置されているか	3	7	0	2.3	7	3	0	0	0	4.7
13.2 プログラム運営に主体的に関与している自大学の教員のモチベーション向上のために何らかの措置が講じられているか	1	8	1	2.0	4	4	2	0	0	4.2
13.3 共同教育プログラム運営の円滑化を図るため、連携大学間の教職員の交流を実施しているか	4	6	0	2.4	4	6	0	0	0	4.4
13.4 自大学の教職員の国際的な対応能力の向上など、教職員の能力開発・キャリア開発を支援するための取組み（FD、SD）が実施されているか	6	3	1	2.5	6	4	0	0	0	4.6

2. プログラム種類による区分

ダブル・ディグリー・プログラムの場合、すべての項目において「実施状況」と「重視度」とともに他のプログラムに比べて高い。「プログラム運営に主体的に関与している教員のモチベーションを向上する措置（項目 13.2）」に関する「実施状況」について、単位互換によるプログラムの平均値がもっとも低く、同項目の重視度については、ツイニング・プログラムの平均値がもっとも低い。

	DD(n=3)		TW(n=4)		単位互換 (n=3)	
	実施状況	重視度	実施状況	重視度	実施状況	重視度
13.1 プログラムの目的や教育内容・水準に適合した教員の数が連携大学間で確保され、適切に配置されているか	2.3	5.0	2.0	4.5	2.7	4.7
13.2 プログラム運営に主体的に関与している自大学の教員のモチベーション向上のために何らかの措置が講じられているか	2.3	4.7	2.0	3.8	1.7	4.3
13.3 共同教育プログラム運営の円滑化を図るため、連携大学間の教職員の交流を実施しているか	2.7	4.7	2.0	4.3	2.7	4.3
13.4 自大学の教職員の国際的な対応能力の向上など、教職員の能力開発・キャリア開発を支援するための取組み（FD、SD）が実施されているか	2.7	4.7	2.3	4.5	2.7	4.7

3. 相手国（中韓と ASEAN）による区分

ASEAN プログラムより中韓プログラムにおける「実施状況」と「重視度」の方が高い。また、「連携大学間の教職員の交流実施（項目 13.3）」について、ASEAN プログラムより中韓プログラムにおいて実施度合が高い。

	中韓 (n=4)		ASEAN(n=6)	
	実施状況	重視度	実施状況	重視度
13.1 プログラムの目的や教育内容・水準に適合した教員の数が連携大学間で確保され、適切に配置されているか	2.5	5.0	2.2	4.5
13.2 プログラム運営に主体的に関与している自大学の教員のモチベーション向上のために何らかの措置が講じられているか	2.0	4.5	2.0	4.0
13.3 共同教育プログラム運営の円滑化を図るため、連携大学間の教職員の交流を実施しているか	2.8	4.5	2.2	4.3
13.4 自大学の教職員の国際的な対応能力の向上など、教職員の能力開発・キャリア開発を支援するための取組み（FD、SD）が実施されているか	2.8	4.8	2.3	4.5

2.2.2.5.4 「学生選抜・参加」について（問 14）

1. 全体

「学生選抜・参加」に関するチェックリストについては、全項目において「重視度」が高い傾向にあるものの、「実施状況」が低い傾向にある。

	実施状況 (n=10) 3:実施・実施していた				重視度 (n=10) 5:重視すべきである					
	3	2	1	平均	5	4	3	2	1	平均
14.1 学生選抜方法（選抜の基準や体制）はプログラムの目的や教育内容を踏まえ、連携大学と協議のうえ設定・実施されているか	4	4	2	2.2	8	2	0	0	0	4.83
14.2 学生選抜方法及び学生募集要項は明確であるか	4	4	2	2.2	6	3	1	0	0	4.53
14.3 参加学生数の数値目標は、充実したプログラムを展開できるよう、連携大学間で適切に設定されているか	5	4	1	2.4	6	3	1	0	0	4.53
14.4 参加学生数の数値目標は自大学において達成されているか。または達成するための工夫が行われているか	4	4	2	2.2	4	5	1	0	0	4.33
14.5 プログラムに関する情報が学生に十分に伝わるような取組み（例：プログラムの募集説明会、参加者体験談等）を行っているか	4	4	2	2.2	5	5	0	0	0	4.53

2. プログラム種類による区分

ツイニング・プログラムは、他のプログラムに比べて「参加学生数の数値目標を連携大学間で設定（項目 14.3）」していない傾向にある。

	DD(n=3)		TW(n=4)		単位互換 (n=3)	
	実施状況	重視度	実施状況	重視度	実施状況	重視度
14.1 学生選抜方法（選抜の基準や体制）はプログラムの目的や教育内容を踏まえ、連携大学と協議のうえ設定・実施されているか	2.3	5.0	2.3	5.0	2.0	4.3
14.2 学生選抜方法及び学生募集要項は明確であるか	2.3	4.7	2.3	4.8	2.0	4.0
14.3 参加学生数の数値目標は、充実したプログラムを展開できるよう、連携大学間で適切に設定されているか	3.0	4.7	1.8	4.3	2.7	4.7
14.4 参加学生数の数値目標は自大学において達成されているか。または達成するための工夫が行われているか	2.7	4.7	2.0	4.0	2.0	4.3
14.5 プログラムに関する情報が学生に十分に伝わるような取組み（例：プログラムの募集説明会、参加者体験談等）を行っているか	2.3	4.7	2.3	4.5	2.0	4.3

3. 相手国（中韓と ASEAN）による区分

「実施状況」、「重視度」の両方の平均値が高かった項目は、中韓プログラムにおける「項目 14.3 参

加学生数の数値目標を連携大学間で設定」である、これを除き、中韓と ASEAN の両方のプログラムにおいて「重視度」に比べて、「実施状況」が高くない結果である。

	中韓 (n=4)		ASEAN(n=6)	
	実施状況	重視度	実施状況	重視度
14.1 学生選抜方法（選抜の基準や体制）はプログラムの目的や教育内容を踏まえ、連携大学と協議のうえ設定・実施されているか	2.0	4.8	2.3	4.8
14.2 学生選抜方法及び学生募集要項は明確であるか	2.0	4.3	2.3	4.7
14.3 参加学生数の数値目標は、充実したプログラムを展開できるよう、連携大学間で適切に設定されているか	3.0	4.8	2.0	4.3
14.4 参加学生数の数値目標は自大学において達成されているか。または達成するための工夫が行われているか	2.3	4.5	2.2	4.2
14.5 プログラムに関する情報が学生に十分に伝わるような取組み（例：プログラムの募集説明会、参加者体験談等）を行っているか	2.0	4.5	2.3	4.5

2.2.2.5.5 「財政と施設・設備」について（問 15）

1. 全体

「財政と施設・設備」について、すべての回答者が「継続的な予算確保のための戦略と、計画（項目 15.1）」は重視すべきであると回答しており、全体的に全ての項目について「重視度」が高い。一方、「実施状況」については、項目「15.1 継続的な予算確保のための戦略と、計画」、「15.4 受け入れた学生に対する奨学金のための予算規模と基準の明確化と適切な支援」、「15.7 情報プラットフォームの構築と十分な内容の随時適切な提供」に関する平均値が比較的低い。

	実施状況 (n=10)				重視度 (n=10)					
	3:実施・実施していた				5:重視すべきである					
	3	2	1	平均	5	4	3	2	1	平均
15.1 自大学でプログラムを運営していくための予算を継続的に確保するための戦略と、適切に運用するための計画を立てているか	3	6	1	2.2	9	1	0	0	0	4.9
15.2 予算は、プログラムの目的を達成するために、適切に執行されているか	5	3	2	2.3	8	2	0	0	0	4.8
15.3 プログラムに参加する学生に対する、学費、航空運賃を含む財政支援に関し、連携大学間で協議し、適切な金額、支給基準などを定めているか	6	4	0	2.6	8	2	0	0	0	4.8
15.4 「15.3」の財政支援以外の、受け入れた学生に対する奨学金のための予算規模と基準が明確であり、適切に支援される仕組みができているか	2	7	1	2.1	7	3	0	0	0	4.7
15.5 受け入れた学生が自大学の学生と同様にすべての学内施設（図書館、IT 機器、研究施設・設備等）が利用できるようになっているか	5	5	0	2.5	6	4	0	0	0	4.6
15.6 受け入れた学生のキャンパスライフに配慮した多言語、多文化に対応できる環境を構築しているか	5	4	1	2.4	5	4	1	0	0	4.4
15.7 プログラムのための情報プラットフォーム（ウェブサイトなど）を構築し、十分な内容を随時適切に提供しているか	3	6	1	2.2	5	5	0	0	0	4.5

2. プログラム種類による区分

ダブル・ディグリー・プログラムは「財政と施設・設備」に関する全項目について「重視度」は高く、「実施状況」については、他の項目に比べて、「受け入れた学生に対する奨学金に関する基準と仕組み（項目 15.4）」に対する実施状況の平均値が低い。

	DD(n=3)		TW(n=4)		単位互換 (n=3)	
	実施状況	重視度	実施状況	重視度	実施状況	重視度
15.1 自大学でプログラムを運営していくための予算を継続的に確保するための戦略と、適切に運用するための計画を立てているか	2.3	5.0	2.3	5.0	2.0	4.7
15.2 予算は、プログラムの目的を達成するために、適切に執行されているか	2.7	5.0	2.3	5.0	2.0	4.3
15.3 プログラムに参加する学生に対する、学費、航空運賃を含む財政支援に関し、連携大学間で協議し、適切な金額、支給基準などを定めているか	2.7	5.0	2.5	4.8	2.7	4.7
15.4 「15.3」の財政支援以外の、受け入れた学生に対する奨学金のための予算規模と基準が明確であり、適切に支援される仕組みができているか	1.7	5.0	2.3	4.5	2.3	4.7
15.5 受け入れた学生が自大学の学生と同様にすべての学内施設（図書館、IT 機器、研究施設・設備等）が利用できるようになっているか	2.7	5.0	2.5	4.3	2.3	4.7
15.6 受け入れた学生のキャンパスライフに配慮した多言語、多文化に対応できる環境を構築しているか	2.7	4.7	2.0	4.0	2.7	4.7
15.7 プログラムのための情報プラットフォーム（ウェブサイトなど）を構築し、十分な内容を随時適切に提供しているか	2.3	4.7	2.0	4.5	2.3	4.3

3. 相手国（中韓とASEAN）による区分

中韓プログラムがASEANプログラムより、全体的に「重視度」が高く、「実施状況」については、他の項目に比べて、「受け入れた学生に対する奨学金に関する基準と仕組み（項目15.4）」の平均値がもっとも低い。

	中韓 (n=4)		ASEAN(n=6)	
	実施状況	重視度	実施状況	重視度
15.1 自大学でプログラムを運営していくための予算を継続的に確保するための戦略と、適切に運用するための計画を立てているか	2.3	5.0	2.2	4.8
15.2 予算は、プログラムの目的を達成するために、適切に執行されているか	2.3	4.8	2.3	4.8
15.3 プログラムに参加する学生に対する、学費、航空運賃を含む財政支援に関し、連携大学間で協議し、適切な金額、支給基準などを定めているか	2.8	5.0	2.5	4.7
15.4 「15.3」の財政支援以外の、受け入れた学生に対する奨学金のための予算規模と基準が明確であり、適切に支援される仕組みができているか	1.8	5.0	2.3	4.5
15.5 受け入れた学生が自大学の学生と同様にすべての学内施設（図書館、IT 機器、研究施設・設備等）が利用できるようになっているか	2.8	5.0	2.3	4.3
15.6 受け入れた学生のキャンパスライフに配慮した多言語、多文化に対応できる環境を構築しているか	2.8	4.8	2.2	4.2
15.7 プログラムのための情報プラットフォーム（ウェブサイトなど）を構築し、十分な内容を随時適切に提供しているか	2.5	4.8	2.0	4.3

2.2.2.5.6 「教育内容・方法」について (問 16)

1. 全体

「教育内容・方法」については、15 の項目があり、「16.13 言語や文化・社会の理解を促進するための教育」、「16.14 教員が連携大学に出向いて共同指導や講義を行う教育」の実施に関する平均値が他の項目に比べて比較的高いが、全体的に「実施状況」は低いと言える。

	実施状況 (n=10) 3:実施・実施していた				重視度 (n=10) 5:重視すべきである					
	3	2	1	平均	5	4	3	2	1	平均
16.1 プログラムで育成する人材像について連携大学間で十分に協議した上で合意し、それを明確に定めているか	2	6	2	2.0	8	2	0	0	0	4.8
16.2 プログラムの教育課程が、連携大学間の強みや特性を活かしていることが具体的に述べられているか	4	4	2	2.2	6	4	0	0	0	4.6

16.3 国際的な共同を行うことによる教育面での付加価値や国際競争力の向上の具体的内容が明確になっているか	4	4	2	2.2	7	2	1	0	0	4.6
16.4 連携大学間で教育内容の水準の同等性を確保するため、定期的な相互確認を実施しているか	1	7	2	1.9	9	1	0	0	0	4.9
16.5 共同で科目を開設する場合、科目の計画・設計、実施・管理、成績管理等について、事前に協議・合意し、適切な役割分担及び責任の所在を明確にしているか	0	8	2	1.8	8	2	0	0	0	4.8
16.6 科目間を構造化するなど、カリキュラムが体系的に編成されているか	1	8	1	2.0	8	1	1	0	0	4.7
16.7 プログラム進行中に、修了時点で獲得が期待される学習成果を達成するためのカリキュラムの見直し等の機会を担保しているか	2	7	1	2.1	8	2	0	0	0	4.8
16.8 大学院課程の研究指導においては、連携大学間で指導教員体制が適切に構築され、指導教員間での連携と協力が機能しているか	2	5	1 (n=8)	2.1	6	2	0	0	0	4.8 (n=8)
16.9 大学院課程の研究指導において、連携大学間で教員が連携して指導に当たる場合、指導方針に関する合意書(そのような参照文書)を作成しているか	1	5	2 (n=8)	1.9	7	1	0	0	0	4.9 (n=8)
16.10 学生の協同を促進し、学習意欲を高めるような教育方法がとられているか	3	6	1	2.2	7	2	1	0	0	4.6
16.11 プログラムにインターンシップが含まれる場合、当該国における就労関係の法的規制、慣行を確認しているか	4	4	1 (n=9)	2.3	7	1	1	0	0	4.7 (n=9)
16.12 連携大学間でアカデミックカレンダーが相違している場合、共同教育プログラム用の特別な授業日程の採用や集中講義、補習を実施しているか	4	5	1	2.3	6	3	1	0	0	4.5
16.13 各国の言語や文化・社会の理解を促進するための教育が行われているか	5	4	1	2.4	6	3	1	0	0	4.5
16.14 必要に応じて、教員が連携大学に出向いて共同指導や講義を行う教育方法が取り入られているか	5	3	2	2.3	6	3	1	0	0	4.5
16.15 eラーニングを実施する場合、スムーズな通信のためのICT環境の整備状況を連携大学間で確認しているか	2	5	3	1.9	5	5	0	0	0	4.5

2. プログラム種類による区分

全体的に他のプログラムに比べて、ツイニング・プログラムの「重視度」に対する「実施状況」がもっとも低い項目が多く、共同教育プログラムにおける教育内容・方法について連携大学間の協働性は低い傾向にあると言える。

	DD(n=3)		TW(n=4)		単位互換 (n=3)	
	実施状況	重視度	実施状況	重視度	実施状況	重視度
16.1 プログラムで育成する人材像について連携大学間で十分に協議した上で合意し、それを明確に定めているか	2.7	5.0	1.8	5.0	1.7	4.3
16.2 プログラムの教育課程が、連携大学間の強みや特性を活かしていることが具体的に述べられているか	2.7	4.7	1.5	4.5	2.7	4.7
16.3 国際的な共同を行うことによる教育面での付加価値や国際競争力の向上の具体的内容が明確になっているか	2.7	4.7	1.5	4.5	2.7	4.7
16.4 連携大学間で教育内容の水準の同等性を確保するため、定期的な相互確認を実施しているか	2.3	5.0	1.8	5.0	1.7	4.7
16.5 共同で科目を開設する場合、科目の計画・設計、実施・管理、成績管理等について、事前に協議・合意し、適切な役割分担及び責任の所在を明確にしているか	2.0	4.7	1.8	5.0	1.7	4.7
16.6 科目間を構造化するなど、カリキュラムが体系的に編成されているか	2.0	5.0	1.8	4.5	2.3	4.7
16.7 プログラム進行中に、修了時点で獲得が期待される学習成果を達成するためのカリキュラムの見直し等の機会を担保しているか	2.3	4.7	1.8	5.0	2.3	4.7
16.8 大学院課程の研究指導においては、連携大学間で指導教員体制が適切に構築され、指導教員間での連携と協力が機能しているか	2.3	5.0	1.5 (n=2)	5.0 (n=2)	2.3	4.3
16.9 大学院課程の研究指導において、連携大学間で教員が連携して指導に当たる場合、指導方針に関する合意書(そのような参照文書)を作成しているか	1.7	5.0	1.5 (n=2)	5.0 (n=2)	2.3	4.7
16.10 学生の協同を促進し、学習意欲を高めるような教育方法がとられているか	2.3	4.7	2.0	4.5	2.3	4.7
16.11 プログラムにインターンシップが含まれる場合、当該国における就労関係の法的規制、慣行を確認しているか	2.3	5.0	2.0 (n=3)	4.3 (n=3)	2.7	4.7
16.12 連携大学間でアカデミックカレンダーが相違している場合、共同教育プログラム用の特別な授業日程の採用や集中講義、補習を実施しているか	2.0	4.7	2.3	4.5	2.7	4.3
16.13 各国の言語や文化・社会の理解を促進するための教育が行われているか	2.3	4.7	2.3	4.3	2.7	4.7
16.14 必要に応じて、教員が連携大学に出向いて共同指導や講義を行う教育方法が取り入れられているか	2.7	4.7	1.8	4.5	2.7	4.3
16.15 eラーニングを実施する場合、スムーズな通信のためのICT環境の整備状況を連携大学間で確認しているか	2.0	4.7	2.0	4.8	1.7	4.0

3. 相手国（中韓と ASEAN）による区分

ASEAN プログラムにおいて「重視度」に対する「実施状況」が低い項目が多く、中韓プログラムにおいても「教育内容の水準の同等性を確保するため、定期的な相互確認（項目 16.4）」、「共同で科目を開設する場合、科目の計画・設計、実施・管理、成績管理等について、事前に協議・合意及び適切な役割分担・責任の所在の明確（項目 16.5）」及び「e ラーニングを実施する場合、スムーズな通信のための ICT 環境の整備状況を連携大学間で確認（項目 16.15）」といった項目の「実施状況」は低い結果である。

	中韓 (n=4)		ASEAN(n=6)	
	実施状況	重視度	実施状況	重視度
16.1 プログラムで育成する人材像について連携大学間で十分に協議した上で合意し、それを明確に定めているか	2.3	4.8	1.8	4.8
16.2 プログラムの教育課程が、連携大学間の強みや特性を活かしていることが具体的に述べられているか	2.8	4.8	1.8	4.5
16.3 国際的な共同を行うことによる教育面での付加価値や国際競争力の向上の具体的内容が明確になっているか	2.8	4.8	1.8	4.5
16.4 連携大学間で教育内容の水準の同等性を確保するため、定期的な相互確認を実施しているか	2.0	5.0	1.8	4.8
16.5 共同で科目を開設する場合、科目の計画・設計、実施・管理、成績管理等について、事前に協議・合意し、適切な役割分担及び責任の所在を明確にしているか	1.8	4.8	1.8	4.8
16.6 科目間を構造化するなど、カリキュラムが体系的に編成されているか	2.3	5.0	1.8	4.5
16.7 プログラム進行中に、修了時点で獲得が期待される学習成果を達成するためのカリキュラムの見直し等の機会を担保しているか	2.3	4.8	2.0	4.8
16.8 大学院課程の研究指導においては、連携大学間で指導教員体制が適切に構築され、指導教員間での連携と協力が機能しているか	2.5	4.8	1.8 (n=4)	4.8 (n=4)
16.9 大学院課程の研究指導において、連携大学間で教員が連携して指導に当たる場合、指導方針に関する合意書(そのような参照文書)を作成しているか	2.0	4.8	1.8 (n=4)	5.0 (n=4)
16.10 学生の協同を促進し、学習意欲を高めるような教育方法がとられているか	2.5	4.8	2.0	4.5
16.11 プログラムにインターンシップが含まれる場合、当該国における就労関係の法的規制、慣行を確認しているか	2.5	5.0	2.2 (n=4)	4.4 (n=5)
16.12 連携大学間でアカデミックカレンダーが相違している場合、共同教育プログラム用の特別な授業日程の採用や集中講義、補習を実施しているか	2.3	4.5	2.3	4.5
16.13 各国の言語や文化・社会の理解を促進するための教育が行われているか	2.5	4.8	2.3	4.3
16.14 必要に応じて、教員が連携大学に出向いて共同指導や講義を行う教育方法が取り入られているか	2.8	4.5	2.0	4.5
16.15 eラーニングを実施する場合、スムーズな通信のための ICT 環境の整備状況を連携大学間で確認しているか	1.8	4.5	2.0	4.5

2.2.2.5.7 「成績評価」について (問 17)

1. 全体

「成績評価」について、3つの項目ともに「重視度」が高いことに比べて、「実施状況」は低く、特に「成績評価基準・方法に関する連携大学間の調整と適切な成績評価の仕組み（項目 17.1）」や「個別の科目の成績評価基準の明文化及び学生に周知できる仕組み（項目 17.2）」が構築されていない場合が多いことが分かる。

	実施状況 (n=10) 3:実施・実施していた				重視度 (n=10) 5:重視すべきである					
	3	2	1	平均	5	4	3	2	1	平均
17.1 連携大学間で成績評価基準・方法について調整を行い、適切な成績評価ができる仕組みを構築しているか	1	7	2	1.9	7	3	0	0	0	4.7
17.2 プログラムを構成する個別の科目の成績評価基準が明確に定められており、かつ学生に周知できる仕組みとなっているか	1	8	1	2.0	7	3	0	0	0	4.7
17.3 成績の評価と読み替えの方法が適切性であるか、確認と見直しを定期的に実施しているか	3	5	2	2.1	7	3	0	0	0	4.7

2. プログラム種類による区分

「実施状況」については、どの種類のプログラムにおいても低いが、「重視度」は比較的高く、特に、ダブル・ディグリー・プログラムはすべての回答者が3つの項目について「重視すべきである」と回答している。

	DD(n=3)		TW(n=4)		単位互換 (n=3)	
	実施状況	重視度	実施状況	重視度	実施状況	重視度
17.1 連携大学間で成績評価基準・方法について調整を行い、適切な成績評価ができる仕組みを構築しているか	2.0	5.0	2.0	4.5	1.7	4.7
17.2 プログラムを構成する個別の科目の成績評価基準が明確に定められており、かつ学生に周知できる仕組みとなっているか	2.3	5.0	1.8	4.8	2.0	4.3
17.3 成績の評価と読み替えの方法が適切性であるか、確認と見直しを定期的に実施しているか	2.3	5.0	2.0	4.8	2.0	4.3

3. 相手国（中韓と ASEAN）による区分「成績評価基準・方法に関する連携大学間の調整と適切な成績評価仕組みの構築（項目 17.1）」については、ASEAN プログラムより中韓プログラムのほうが「実施状況」が低い反面、「個別の科目の成績評価基準の明文化及び学生に周知できる仕組み（項目 17.2）」については、ASEAN プログラムの「実施状況」が低い。

	中韓 (n=4)		ASEAN(n=6)	
	実施状況	重視度	実施状況	重視度
17.1 連携大学間で成績評価基準・方法について調整を行い、適切な成績評価ができる仕組みを構築しているか	1.8	5.0	2.0	4.5
17.2 プログラムを構成する個別の科目の成績評価基準が明確に定められており、かつ学生に周知できる仕組みとなっているか	2.3	4.8	1.8	4.7
17.3 成績の評価と読み替えの方法が適切性であるか、確認と見直しを定期的実施しているか	2.0	4.8	2.2	4.7

2.2.2.5.8 「単位互換・認定」について (問 18)

1. 全体

「単位互換・認定するシステムは構築（項目 18.1）」、「学習内容の確認（項目 18.2）」、「適切な方法と定期的な見直し（項目 18.5）」について「重視度」が高く、「実施状況」も比較的高い。一方、「ACTS、ECTS などの国際的な枠組み（項目 18.4）」については、どちらかと言えば重視すべきであると回答している割合が高く、どのプログラムにおいても実施していない。

	実施状況 (n=10) 3:実施・実施していた				重視度 (n=10) 5:重視すべきである					
	3	2	1	平均	5	4	3	2	1	平均
18.1 連携大学との単位制度の違いを踏まえた上で、適切に単位互換・認定するシステムは構築されているか	5	4	1	2.4	9	1	0	0	0	4.9
18.2 単位互換・認定の際には、授業科目名だけではなく学習の内容を確認しているか	4	5	1	2.3	9	1	0	0	0	4.9
18.3 研究活動が中心のプログラムの場合、学生の研究活動に対する単位認定の方針は設けられているか	1	6	2	1.9 (n=9)	6	2	1	0	0	4.6 (n=9)
18.4 単位互換・認定の仕組みや方法を整備する際、既に国際的に利用されている枠組み (ACTS,ECTS など) を有効に活用しているか	0	6	4	1.6	3	6	1	0	0	4.2
18.5 単位互換・認定の方法が適切性であるか、確認と見直しを定期的実施しているか	5	4	1	2.4	8	2	0	0	0	4.8
18.6 連携大学との単位互換・認定に関する条件を定めた合意書が作成されているか	3	5	2	2.1	8	2	0	0	0	4.8

2. プログラム種類による区分

どの種類のプログラムにおいても「重視度」は高い傾向にある。一方、単位互換によるプログラムにおいては「ACTS、ECTSなどの国際的な枠組み（項目18.4）」について「重視度」と「実施状況」とともに低い結果である。

	DD(n=3)		TW(n=4)		単位互換 (n=3)	
	実施状況	重視度	実施状況	重視度	実施状況	重視度
18.1 連携大学との単位制度の違いを踏まえた上で、適切に単位互換・認定するシステムは構築されているか	2.7	5.0	2.0	5.0	2.7	4.7
18.2 単位互換・認定の際には、授業科目名だけではなく学習の内容を確認しているか	2.7	5.0	1.8	5.0	2.7	4.7
18.3 研究活動が中心のプログラムの場合、学生の研究活動に対する単位認定の方針は設けられているか	2.0	5.0	1.3 (n=3)	4.3 (n=3)	2.3	4.3
18.4 単位互換・認定の仕組みや方法を整備する際、既に国際的に利用されている枠組み（ACTS,ECTS など）を有効に活用しているか	2.0	5.0	1.3	4.0	1.7	3.7
18.5 単位互換・認定の方法が適切性であるか、確認と見直しを定期的実施しているか	3.0	5.0	2.0	5.0	2.3	4.3
18.6 連携大学との単位互換・認定に関する条件を定めた合意書が作成されているか	2.0	5.0	1.8	4.8	2.7	4.7

3. 相手国（中韓と ASEAN）による区分

中韓プログラムのほうが ASEAN プログラムより、「実施状況」と「重視度」において平均点が比較的高く、特に、他の項目に比べても「単位互換・認定するシステムは構築（項目 18.1）」、「学習内容の確認（項目 18.2）」、「適切な方法と定期的な見直し（項目 18.5）」について、「重視度」も「実施状況」も高い

	中韓 (n=4)		ASEAN(n=6)	
	実施状況	重視度	実施状況	重視度
18.1 連携大学との単位制度の違いを踏まえた上で、適切に単位互換・認定するシステムは構築されているか	2.8	5.0	2.2	4.8
18.2 単位互換・認定の際には、授業科目名だけでなく学習の内容を確認しているか	2.8	5.0	2.0	4.8
18.3 研究活動が中心のプログラムの場合、学生の研究活動に対する単位認定の方針は設けられているか	2.3	5.0	1.6 (n=5)	4.2 (n=5)
18.4 単位互換・認定の仕組みや方法を整備する際、既に国際的に利用されている枠組み (ACTS,ECTS など) を有効に活用しているか	2.0	4.8	1.3	3.8
18.5 単位互換・認定の方法が適切性であるか、確認と見直しを定期的実施しているか	2.8	4.8	2.2	4.8
18.6 連携大学との単位互換・認定に関する条件を定めた合意書が作成されているか	2.3	5.0	2.0	4.7

2.2.2.5.9 「学習支援」について (問 19)

1. 全体

「学習支援」に関するチェックリストについて、受け入れる学生向けの「履修指導、TA等の配置、語学研修や補習（項目 19.6）」と「各種資料の翻訳や諸手続の支援（項目 19.7）」については、実施しているプログラムが多い。一方、他の項目については実施していないと回答したプログラムが多い。

	実施状況 (n=10)				重視度 (n=10)					
	3:実施・実施していた				5:重視すべきである					
	3	2	1	平均	5	4	3	2	1	平均
19.1 プログラムを構成する科目のシラバスが適切に作成され、参加する学生が前もって確認できる仕組みとなっているか	4	5	1	2.3	7	3	0	0	0	4.7
19.2 参加する学生が自分の学習履歴・状況を把握できる仕組みはできているか	3	5	2	2.1	4	5	1	0	0	4.3
19.3 派遣する学生に対して、派遣先大学のカリキュラム、科目履修順序、単位認定可能な科目を含む情報を理解させるための派遣前履修指導を実施しているか	4	4	2	2.2	5	4		1	0	4.4
19.4 派遣する学生に対して、事前に語学研修補習による追加指導を実施し、留学中に遠隔指導等の各種の学習支援を実施しているか	4	5	1	2.3	6	4	0	0	0	4.6
19.5 派遣先大学での科目履修及び単位の修得に支障が生じた学生への対応方針を明確に定めているか	3	5	2	2.1	6	4	0	0	0	4.6
19.6 受け入れる学生向けに、履修指導、教育支援者・TAの配置、語学研修や補習を行なっているか	5	4	1	2.4	5	4	1	0	0	4.4
19.7 受け入れる学生向けに、学内各種資料の翻訳や諸手続の支援を実施しているか	6	3	1	2.5	6	3	1	0	0	4.5

2. プログラム種類による区分

「重視度」について全体的に平均値が高いのはダブル・ディグリー・プログラムであり、「実施状況」の平均値が高いほうは単位互換によるプログラムである。また、ダブル・ディグリー・プログラムにおいては、派遣する学生に対する「派遣前履修指導（項目 19.3）」、「留学中に遠隔指導等（項目 19.4）」の支援が比較的实施されていないことが分かる。

	DD(n=3)		TW(n=4)		単位互換 (n=3)	
	実施状況	重視度	実施状況	重視度	実施状況	重視度
19.1 プログラムを構成する科目のシラバスが適切に作成され、参加する学生が前もって確認できる仕組みとなっているか	2.3	5.0	2.0	4.8	2.7	4.3
19.2 参加する学生が自分の学習履歴・状況を把握できる仕組みはできているか	2.7	4.7	1.5	4.3	2.3	4.0
19.3 派遣する学生に対して、派遣先大学のカリキュラム、科目履修順序、単位認定可能な科目を含む情報を理解させるための派遣前履修指導を実施しているか	2.3	4.7	1.8	4.3	2.7	4.3
19.4 派遣する学生に対して、事前に語学研修補習による追加指導を実施し、留学中に遠隔指導等の各種の学習支援を実施しているか	2.0	4.7	2.3	4.5	2.7	4.7
19.5 派遣先大学での科目履修及び単位の修得に支障が生じた学生への対応方針を明確に定めているか	2.3	4.7	1.5	4.8	2.7	4.3
19.6 受け入れる学生向けに、履修指導、教育支援者・TAの配置、語学研修や補習を行なっているか	2.7	4.7	2.0	4.3	2.7	4.3
19.7 受け入れる学生向けに、学内各種資料の翻訳や諸手続の支援を実施しているか	2.7	4.3	2.3	4.8	2.7	4.3

3. 相手国（中韓とASEAN）による区分

中韓プログラムのほうがASEANプログラムより、「実施状況」、「重視度」とともに高い傾向にあるが、「受け入れる学生に対する財政的支援や宿舎を含む生活支援に関する情報の事前提供（項目20.1）」においては、ASEANプログラムの「重視度」が高い

	中韓 (n=4)		ASEAN(n=6)	
	実施状況	重視度	実施状況	重視度
19.1 プログラムを構成する科目のシラバスが適切に作成され、参加する学生が前もって確認できる仕組みとなっているか	2.5	4.8	2.2	4.7
19.2 参加する学生が自分の学習履歴・状況を把握できる仕組みはできているか	2.8	4.5	1.7	4.2
19.3 派遣する学生に対して、派遣先大学のカリキュラム、科目履修順序、単位認定可能な科目を含む情報を理解させるための派遣前履修指導を実施しているか	2.5	4.5	2.0	4.3
19.4 派遣する学生に対して、事前に語学研修補習による追加指導を実施し、留学中に遠隔指導等の各種の学習支援を実施しているか	2.3	4.8	2.3	4.5
19.5 派遣先大学での科目履修及び単位の修得に支障が生じた学生への対応方針を明確に定めているか	2.5	4.5	1.8	4.7
19.6 受け入れる学生向けに、履修指導、教育支援者・TAの配置、語学研修や補習を行なっているか	2.8	4.5	2.2	4.3
19.7 受け入れる学生向けに、学内各種資料の翻訳や諸手続の支援を実施しているか	2.8	4.3	2.3	4.7

2.2.2.5.10 「生活・キャリア支援」について (問 20)

1. 全体

「重視度」は比較的高く、重視すべきであると認識されているといえるが、「実施状況」が低い項目は「20.3 派遣・受入両方の参加学生に対する卒業・修了後の就職・進学の支援」である。また、「参加学生間での交流支援や、卒業・修了後の同窓会組織の形成を支援（項目 20.4）」について、「実施状況」が「項目 20.3」よりは高いが、全体からは低い傾向であり、「重視度」はもっとも低い結果である。

	実施状況 (n=10)				重視度 (n=10)					
	3:実施・実施していた				5:重視すべきである					
	3	2	1	平均	5	4	3	2	1	平均
20.1 受け入れる学生に対して、事前に財政的支援や宿舎を含む生活支援に関する情報を適切に提供しているか	6	3	1	2.5	6	4	0	0	0	4.6
20.2 派遣する学生に対して、ビザ取得のための支援を含め、オリエンテーション、言語や生活面の支援やカウンセリング、災害時等のリスク管理を含む各種の生活支援を行っているか	5	4	1	2.4	6	4	0	0	0	4.6
20.3 派遣・受入両方の参加学生に対して、卒業・修了後の就職・進学の支援を行っているか	2	5	3	1.9	5	4	1	0	0	4.4
20.4 派遣・受入両方の参加学生間での交流支援や、卒業・修了後の同窓会組織の形成を支援しているか	2	7	1	2.1	3	5	2	0	0	4.1

2. プログラム種類による区分

すべての項目においてダブル・ディグリー・プログラムの「重視度」は他のプログラム種類より比較的高く、「実施状況」も高い。ツイニング・プログラムにおいては、項目「20.1 受け入れる学生に対する財政的支援や宿舎を含む生活支援に関する情報の事前提供」に対する「重視度」が他のプログラム種類に比べてもっとも高い反面、「実施状況」は低い。また、「派遣・受入両方の参加学生に対する卒業・修了後の就職・進学への支援（項目 20.3）」については、「実施状況」がもっとも低く、「参加学生間での交流支援や、卒業・修了後の同窓会組織の形成を支援（項目 20.4）」については、他の項目に比べて重視していないことが分かる。

	DD(n=3)		TW(n=4)		単位互換 (n=3)	
	実施状況	重視度	実施状況	重視度	実施状況	重視度
20.1 受け入れる学生に対して、事前に財政的支援や宿舎を含む生活支援に関する情報を適切に提供しているか	2.7	4.7	2.3	4.8	2.7	4.3
20.2 派遣する学生に対して、ビザ取得のための支援を含め、オリエンテーション、言語や生活面の支援やカウンセリング、災害時等のリスク管理を含む各種の生活支援を行っているか	2.7	4.7	2.0	4.5	2.7	4.7
20.3 派遣・受入両方の参加学生に対して、卒業・修了後の就職・進学の支援を行っているか	2.0	4.7	1.8	4.3	2.0	4.3
20.4 派遣・受入両方の参加学生間での交流支援や、卒業・修了後の同窓会組織の形成を支援しているか	2.3	4.7	2.0	3.8	2.0	4.0

3. 相手国（中韓と ASEAN）による区分

中韓プログラムのほうが ASEAN プログラムより、「実施状況」と「重視度」とともに高く、「国際的な共同教育プログラムによる付加価値（項目 21.5）」については、すべてのプログラムが重視すべき項目であると回答している。

	中韓 (n=4)		ASEAN(n=6)	
	実施状況	重視度	実施状況	重視度
20.1 受け入れる学生に対して、事前に財政的支援や宿舎を含む生活支援に関する情報を適切に提供しているか	2.8	4.5	2.3	4.7
20.2 派遣する学生に対して、ビザ取得のための支援を含め、オリエンテーション、言語や生活面の支援やカウンセリング、災害時等のリスク管理を含む各種の生活支援を行っているか	2.8	4.8	2.2	4.5
20.3 派遣・受入両方の参加学生に対して、卒業・修了後の就職・進学の支援を行っているか	2.3	4.8	1.7	4.2
20.4 派遣・受入両方の参加学生間での交流支援や、卒業・修了後の同窓会組織の形成を支援しているか	2.3	4.5	2.0	3.8

2.2.2.5.11 「学習成果の測定」について (問 21)

1. 全体

学習成果の測定の「実施状況」については、実施・実現していないが計画中であると回答した項目が多い。「重視度」については、「学習成果の測定方法の設定（項目 21.2）」と「国際的な共同教育プログラムによる付加価値（項目 21.5）」を重視する度合いが他の項目に比べて高いことが分かる。

	実施状況 (n=10)				重視度 (n=10)					
	3:実施・実施していた				5:重視すべきである					
	3	2	1	平均	5	4	3	2	1	平均
21.1 科目履修、単位修得の状況を把握し、参加学生の学習状況を分析しているか	3	6	1	2.2	4	5	1	0	0	4.3
21.2 学習成果の測定方法を適切に設定しているか（例：達成度や学習経験に関する調査、ルーブリック、学習ポートフォリオ、卒業論文・プロジェクト等のキャップストーン、標準テストや共通テスト）	3	6	1	2.2	7	2	1	0	0	4.6
21.3 学習成果の測定は継続的に行っているか	4	5	1	2.3	5	3	2	0	0	4.3
21.4 測定した学習成果は、共同教育プログラムに期待される水準に達しているか	2	6	1	2.1 (n=9)	5	4	1	0	0	4.4
21.5 国際的な共同教育プログラムによって実現される付加価値が得られているか	4	4	1	2.3 (n=9)	7	2	1	0	0	4.6
21.6 プログラム卒業・修了者に対する教育内容への満足度調査、卒業・修了者の雇用者に対する調査を行い、学習成果を分析しているか	3	4	2	2.1 (n=9)	4	5	1	0	0	4.3

2. プログラム種類による区分

ダブル・ディグリー・プログラムは他のプログラムにより、「実施状況」、「重視度」とともに高い。一方、重視すべきであると考えているが、「実施状況」がそれに比べ低い項目は「学習成果の測定方法の設定（項目 21.2）」と「卒業・修了者に対する満足度調査、雇用者に対する調査を通うじた学習成果の分析（項目 21.6）」である。ツイニング・プログラムにおいては、「実施状況」は他のプログラムに比べて低く、「国際的な共同教育プログラムによる付加価値（項目 21.5）」については、「実施状況」は低いが他の項目に比べて「重視度」が高い。

	DD(n=3)		TW(n=4)		単位互換 (n=3)	
	実施状況	重視度	実施状況	重視度	実施状況	重視度
21.1 科目履修、単位修得の状況を把握し、参加学生の学習状況を分析しているか	2.7	4.7	2.0	4.3	2.0	4.0
21.2 学習成果の測定方法を適切に設定しているか（例：達成度や学習経験に関する調査、ルーブリック、学習ポートフォリオ、卒業論文・プロジェクト等のキャップストーン、標準テストや共通テスト）	2.3	5.0	2.0	4.5	2.3	4.3
21.3 学習成果の測定は継続的に行っているか	2.7	4.7	2.0	4.0	2.3	4.3
21.4 測定した学習成果は、共同教育プログラムに期待される水準に達しているか	2.7	5.0	1.7 (n=3)	4.0	2.0	4.3
21.5 国際的な共同教育プログラムによって実現される付加価値が得られているか	2.7	5.0	2.0 (n=3)	4.8	2.3	4.0
21.6 プログラム卒業・修了者に対する教育内容への満足度調査、卒業・修了者の雇用者に対する調査を行い、学習成果を分析しているか	2.3	4.7	2.0 (n=3)	4.3	2.0	4.0

3. 相手国（中韓とASEAN）による区分

中韓プログラムのほうがASEANプログラムより、「実施状況」と「重視度」とともに高く、「国際的な共同教育プログラムによる付加価値（項目21.5）」については、すべてのプログラムが重視すべき項目であると回答している。

	中韓 (n=4)		ASEAN(n=6)	
	実施状況	重視度	実施状況	重視度
21.1 科目履修、単位修得の状況を把握し、参加学生の学習状況を分析しているか	2.5	4.5	2.0	4.2
21.2 学習成果の測定方法を適切に設定しているか（例：達成度や学習経験に関する調査、ルーブリック、学習ポートフォリオ、卒業論文・プロジェクト等のキャップストーン、標準テストや共通テスト）	2.5	4.8	2.0	4.5
21.3 学習成果の測定は継続的に行っているか	2.8	4.8	2.0	4.0
21.4 測定した学習成果は、共同教育プログラムに期待される水準に達しているか	2.5	4.8	1.8 (n=5)	4.2
21.5 国際的な共同教育プログラムによって実現される付加価値が得られているか	2.8	5.0	2.0 (n=5)	4.3
21.6 プログラム卒業修了者に対する教育内容への満足度調査、卒業修了者の雇用者に対する調査を行い、学習成果を分析しているか	2.0	4.5	2.2 (n=5)	4.2

2.2.2.5.12 「学位授与」について（問22）

（[回答対象プログラム] がジョイント・ディグリー、ダブル・ディグリー、ツイニングのプログラムである場合のみ回答）

1. 全体

学位授与についての回答数は4件であり、それぞれの項目に対する「重視度」は高い一方、「実施状況」はそれに比べ低く、特に、どのプログラムにおいても「学位記の追記資料として、プログラムの概要や履修内容および成果等に関する情報を記載した資料の様式を連携大学間で調整して、学位記に添付（項目22.4）」していないことが分かる。

	実施状況 (n=10)				重視度 (n=10)					
	3:実施・実施していた				5:重視すべきである					
	3	2	1	平均	5	4	3	2	1	平均
22.1 ジョイント・ディグリーの場合、授与基準・方法は、連携大学と十分に協議したうえで、明確に設定されているか	1	1	0	2.5 (n=2)	1	1	0	0	0	4.5 (n=2)
22.2 大学院課程における学位授与の審査員となる教員について、資格及び専門分野の適切性は確保されているか	1	2	0	2.3 (n=3)	3	0	0	0	0	5.0 (n=3)
22.3 論文作成が修了要件である場合、論文の内容、言語、本数について連携大学と十分に協議をしたうえで、適切な方針を定めているか	1	2	0	2.3 (n=3)	3	0	0	0	0	5.0 (n=3)
22.4 学位記の追記資料として、プログラムの概要や履修内容および成果等に関する情報を記載した資料の様式を連携大学間で調整して、学位記に添付しているか	0	3	1	1.8	3	1	0	0	0	4.8
22.5 授与される学位は、全ての連携大学が属する国の雇用市場において認められるものになっているか	2	2	0	2.5	3	0	1	0	0	4.5

2. プログラム種類による区分

「重視度」については、ダブル・ディグリー・プログラム、単位互換によるプログラム、ツイニング・プログラムの順に高い。ツイニング・プログラムのほとんどの項目において「重視度」は比較的高いといえるが、それに比べて「実施状況」は低いことが分かる。

	DD(n=3)		TW(n=1)	
	実施状況	重視度	実施状況	重視度
22.1 ジョイント・ディグリーの場合、授与基準・方法は、連携大学と十分に協議したうえで、明確に設定されているか	2.5 (n=2)	4.5 (n=2)	-	-
22.2 大学院課程における学位授与の審査員となる教員について、資格及び専門分野の適切性は確保されているか	2.3	5.0	-	-
22.3 論文作成が修了要件である場合、論文の内容、言語、本数について連携大学と十分に協議をしたうえで、適切な方針を定めているか	2.3	5.0	-	-
22.4 学位記の追記資料として、プログラムの概要や履修内容および成果等に関する情報を記載した資料の様式を連携大学間で調整して、学位記に添付しているか	1.7	4.7	2.0	5.0
22.5 授与される学位は、全ての連携大学が属する国の雇用市場において認められるものになっているか	2.3	4.3	3.0	5.0

3. 相手国（中韓と ASEAN）による区分

「質保証の原則・方針・実施方法の共有・合意（項目 23.1）」と「合意された質保証の原則・方針・実施方法に基づいた質保証活動の実施（項目 23.2）」について、中韓プログラムと ASEAN プログラムともに重視している。一方、「実施状況」については中韓プログラムより ASEAN プログラムのほうが低く、その差は他の項目に比べて大きい。

	中韓 (n=4)		ASEAN(n=6)	
	実施状況	重視度	実施状況	重視度
22.1 ジョイント・ディグリーの場合、授与基準・方法は、連携大学と十分に協議したうえで、明確に設定されているか	2.5 (n=2)	4.5 (n=2)	-	-
22.2 大学院課程における学位授与の審査員となる教員について、資格及び専門分野の適切性は確保されているか	2.3	5.0	-	-
22.3 論文作成が修了要件である場合、論文の内容、言語、本数について連携大学と十分に協議をしたうえで、適切な方針を定めているか	2.3	5.0	-	-
22.4 学位記の追記資料として、プログラムの概要や履修内容および成果等に関する情報を記載した資料の様式を連携大学間で調整して、学位記に添付しているか	1.7	4.7	2.0	5.0
22.5 授与される学位は、全ての連携大学が属する国の雇用市場において認められるものになっているか	2.3	4.3	3.0	5.0

2.2.2.5.13 「内部質保証」について (問 23)

1. 全体

内部質保証については、「実施・実現していなが計画中」の回答が多く、もっとも「実施状況」が高い項目は「23.8 ウェブサイトやイベント等を通じたプログラムの教育内容・学習成果等の情報の発信」である。「重視度」について、もっとも高い平均値は「質保証の原則・方針・実施方法の共有・合意(項目 23.1)」と「合意された質保証の原則・方針・実施方法に基づいた質保証活動の実施(項目 23.2)」であった。また、「国際的なプログラム認定への受審(項目 23.7)」に対する「重視度」は他の項目に比べて低いことが分かる。

	実施状況 (n=10)				重視度 (n=10)					
	3:実施・実施していた				5:重視すべきである					
	3	2	1	平均	5	4	3	2	1	平均
23.1 プログラムについて、連携大学間でそれぞれの質保証の原則・方針・実施方法を共有し、合意しているか	3	6	1	2.2	8	2	0	0	0	4.8
23.2 連携大学間で合意された質保証の原則・方針・実施方法に基づいて、質保証活動が適切に実施されているか	2	7	1	2.1	8	2	0	0	0	4.8
23.3 プログラムについて、学生に定期的な意見聴取(アンケート調査、懇談、レビュー委員会への学生参画のうち少なくともひとつ)を実施しているか	4	4	2	2.2	4	6	0	0	0	4.4
23.4 プログラムの質の向上・改善のために、学生から聴取した意見を踏まえた取組みを継続的に実施しているか	3	4	2	2.1	3	6	0	0	0	4.3
23.5 連携大学間で定期的な運営委員会等を開催し、プログラムの質の向上・改善に取り組んでいるか	2	7	1	2.1	5	5	0	0	0	4.5
23.6 定期的に外部有識者を入れたレビューを実施しているか	2	6	2	2.0	5	3	2	0	0	4.3
23.7 国際的なプログラム認定を受ける予定がある、または、受けているか	0	6	4	1.6	2	5	3	0	0	3.9
23.8 ウェブサイトやイベント等を通じて、学内外に広くプログラムの教育内容・学習成果等の情報を発信しているか	4	5	1	2.3	3	7	0	0	0	4.3

2. プログラム種類による区分

「重視度」については、ダブル・ディグリー・プログラム、単位互換によるプログラム、ツイニング・プログラムの順に高い。ツイニング・プログラムのほとんどの項目において「重視度」は比較的高いといえるが、それに比べて「実施状況」は低いことが分かる。

	DD(n=3)		TW(n=4)		単位互換 (n=3)	
	実施状況	重視度	実施状況	重視度	実施状況	重視度
23.1 プログラムについて、連携大学間でそれぞれの質保証の原則・方針・実施方法を共有し、合意しているか	2.3	5.0	1.8	4.8	2.7	4.7
23.2 連携大学間で合意された質保証の原則・方針・実施方法に基づいて、質保証活動が適切に実施されているか	2.3	5.0	1.8	4.8	2.3	4.7
23.3 プログラムについて、学生に定期的な意見聴取（アンケート調査、懇談、レビュー委員会への学生参画のうち少なくともひとつ）を実施しているか	2.7	4.7	2.0	4.5	2.0	4.0
23.4 プログラムの質の向上・改善のために、学生から聴取した意見を踏まえた取組みを継続的に実施しているか	2.7	4.7	1.7	4.3	2.0	4.0
23.5 連携大学間で定期的な運営委員会等を開催し、プログラムの質の向上・改善に取り組んでいるか	2.3	5.0	1.8	4.3	2.3	4.3
23.6 定期的に外部有識者を入れたレビューを実施しているか	2.3	5.0	1.5	3.8	2.3	4.3
23.7 国際的なプログラム認定を受ける予定がある、または、受けているか	1.7	4.0	1.5	4.0	1.7	3.7

3. 相手国（中韓と ASEAN）による区分

「質保証の原則・方針・実施方法の共有・合意（項目 23.1）」と「合意された質保証の原則・方針・実施方法に基づいた質保証活動の実施（項目 23.2）」について、中韓プログラムと ASEAN プログラムともに重視している。一方、「実施状況」については中韓プログラムより ASEAN プログラムのほうが低く、その差は他の項目に比べて大きい。

	中韓 (n=4)		ASEAN(n=6)	
	実施状況	重視度	実施状況	重視度
23.1 プログラムについて、連携大学間でそれぞれの質保証の原則・方針・実施方法を共有し、合意しているか	2.5	5.0	2.0	4.7
23.2 連携大学間で合意された質保証の原則・方針・実施方法に基づいて、質保証活動が適切に実施されているか	2.5	5.0	1.8	4.7
23.3 プログラムについて、学生に定期的な意見聴取（アンケート調査、懇談、レビュー委員会への学生参画のうち少なくともひとつ）を実施しているか	2.3	4.5	2.2	4.3
23.4 プログラムの質の向上・改善のために、学生から聴取した意見を踏まえた取組みを継続的に実施しているか	2.3	4.5	2.0	4.2
23.5 連携大学間で定期的な運営委員会等を開催し、プログラムの質の向上・改善に取り組んでいるか	2.3	4.8	2.0	4.3
23.6 定期的に外部有識者を入れたレビューを実施しているか	2.5	4.8	1.7	4.0
23.7 国際的なプログラム認定を受ける予定がある、または、受けているか	1.5	3.8	1.7	4.0
23.8 ウェブサイトやイベント等を通じて、学内外に広くプログラムの教育内容・学習成果等の情報を発信しているか	2.5	4.5	2.2	4.2

2.2.2.6 まとめ

本調査では、チェックリストの 13 カテゴリーごとに実施状況と重視度について回答を求め、全体、プログラム種類、相手国（中韓と ASEAN）に区分して結果を示した。分析可能な有効回答数が多いことから一般化はできないものの、一定の傾向として以下のことがいえる。

全体的には、重視度合いはどのカテゴリーも高い傾向にあり、国際的な共同教育プログラムに関わる関係者は、大部分のチェック項目を重視すべき項目であると認識していた。プログラムの種類と相手国においては、回答した全ダブル・ディグリー・プログラムが中韓プログラムであったことが背景にあるとは考えられるが、ダブル・ディグリー・プログラムと中韓プログラムについては他のプログラムに比べ、多くの項目について重視すべきであると認識していた。また、実施状況についてはある程度高い傾向がみられたものの、プログラムの種類と相手国によって差がみられる項目もあった。さらに、重視度合いは高かったものの実施状況はそれほど高くない、すなわち、重視度合いと実施状況のギャップが大きい項目が明らかになった。例えば、「共同教育プログラムを構築する際に、段階的な交流による経験からのノウハウや

課題の確認」、「連携大学間での成績評価基準・方法についての調整と適切な成績評価仕組みの構築」、「単位互換・認定における国際的な枠組みの活用」、「やむを得ない事由によりプログラムが終了された場合の学生支援体制・仕組みの整備」といった項目は重視度に比べて実施状況が高くなく、今後実施について高等教育機関が検討し、必要に応じて実施していくことが望まれる。